

## アカンプロサート併用療法の断酒割合への関連

河村 論 (薬剤師)

医療法人耕仁会札幌太田病院 薬局

### 1. 背景

2013年5月に断酒補助剤レグテクト錠(一般名:アカンプロサートカルシウム錠)が発売となり、従来薬のシアナマイド内用液とは作用機序が異なることから、さらなる断酒効果の改善が期待される。当院においては、シアナマイドとの併用療法が増加しているが、併用による断酒効果についての報告は少ないため、当院におけるシアナマイド単剤療法とシアナマイド・レグテクト併用療法の断酒効果を比較した。

### 2. 方法

対象:2019年10月~2020年3月の退院時処方で、シアナマイド単剤療法(以下単剤群)または、シアナマイド・レグテクト併用療法(以下併用群)を行っていた患者19例中、転院3例を除外した16例を対象とした。抗酒薬は定期服用を調査し、頓服は除外した。

情報収集:患者の情報は電子カルテより取得した。

アウトカム:退院3ヶ月後の飲酒の有無をアウトカムと定義した。断酒の有無は医師のカルテ記事で判断した。飲酒量や飲酒日数は考慮しなかった。通院が途絶えた場合は、飲酒と判断した。

### 3. 結果

患者背景は単剤群:9例(男性:女性=6:3 年齢60歳:30歳-69歳)、併用群:7例(男性:女性=7:0 年齢63歳:34歳-70歳)(中央値:最小-最大)であった。2群間で入院治療回数、年齢、退院先、就労状況、デイケア利用の有無などに極端な偏りは認められなかった。退院3ヶ月後の断酒割合は単剤群33.3%(3/9例)、併用群71.4%(5/7例)であった。

### 4. 考察

レグテクトの国内第Ⅲ相プラセボ対照二重盲検比較試験では単剤の効果は示されていたが、他の抗酒薬との併用による効果は不明であった。本研究から、併用による断酒効果が示唆された。一般的に心理社会的治療(集団精神療法や自助グループ)との併用で断酒効果が高まるように、薬物治療でも異なる作用機序の薬剤を併用することで断酒効果が高まる可能性が考えられた。

### 5. 研究の限界

本調査はサンプル数が少なく、レグテクトの選択基準も設定していないため、偏りが偶然生じた可能性は否定できない。また、認知機能が断酒割合に影響を及ぼしている可能性もあるが、今回の後方視的カルテ調査では十分に情報を集めることができなかった。

参考文献:日本新薬株式会社「アカンプロサートの国内第Ⅲ相プラセボ対照二重盲検比較試験(NS11/P3/01試験)」